

工事概要	工事概要		工事目的 ・当防水改修工事は、従来の防水工事に加えて、断熱材の向上による「居住性向上」の整備、高反射保護塗料による「長寿命化」の整備を行う工事で、社会資本整備総合交付金「居住性向上」及び「長寿命化」に対応する工事とすることを必要とする工事。 ・そのため、断熱性の計算書及び耐用年数の計算書並びに従来の工法の比較による耐用年数の検討及び説明書が必要。
	1. 工事名称	上之丘団地4号棟屋上防水改修工事	
	2. 工事概要	アスファルト防水改修工事	
	3. 工事発注者	伊賀市長 岡本栄	
	4. 敷地	建設地 伊賀市八幡町地内 法規制 都市計画区域 市街化区域、第1種中高層住居専用地域（60%、200%）、法22条区域	
	5. 工期		
	6. 建物概要	用途 共同住宅（市営住宅） 規模 4階建 構造 プレキャストコンクリート造 建築面積 m ² 建築率 % 延床面積 m ² 容積率 % 軒高 m 最高部高 m	
	7. 別途工事		
	共通事項	工事中の法規改正及び関係官庁よりの指導事項等による変更工事。近隣への各種公害対策費	
	建築工事	図示のない什器備品、家具	
電気設備工事	電力引込工事需要家負担金、電話債権及び局電話用配線、機器取付工事		
給排水衛生設備工事	給水加入負担金		
各設備工事使用料金	電気、水道、ガス等の本設後引渡しまでの基本料金及び使用料金は施工業者の負担とする		
8. 建築工事仕様	1. 図面及び特記仕様書に記載のない事項は全て国土交通大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（最新版）に準じる 2. 特記仕様（1）項目は番号に※印のついたものを適用する（2）特記事項に記載の（ ）内の番号は建築工事共通仕様書の該当項目、該当表、及び該当図を示す 3. 本特記仕様書で「図示」とあるのは設計図面記載事項を意味する 4. 本工事の設計図書の優先順位（1. 質疑回答書 2. 本特記仕様書 3. 設計図面 4. 工事費内訳書） 5. 製造所に記載のある場合は記載された製造所の製品と同等以上のものとする		

① 一般事項	項目	
	1. 適用基準等	公共建築工事標準仕様書、建築工事標準詳細図（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）、工事写真の撮り方
	2. 電気担当技術者	・適用する ・適用しない
	3. 技能士	適用工事種別 ・鉄筋工事 ・コンクリート工事（床コンクリートこて仕上、型枠） ・鉄骨工事 ・ALCパネル工事 ・防水工事 ・タイル工事 ・木工事 ・屋根及び樋工事 ・金属工事 ・左官工事 ・建具工事 ・塗装工事 ・内装工事（畳敷き） ・植栽工事
	4. 建築材料等	建築材料の製造所、製品及び施工業者等は、特記されたもの又はこれと同等以上とする ただし、同等以上とする場合は監督員の承諾を受ける 品質が求められる水準以上であれば、県内生産品の優先使用に努める事
	5. 特別な材料の工法	建築工事共通仕様書に記載されていない特別な工法は、当該製品の指定工法による
	6. 発生材の処理	※ 構外搬出適切処理
	7. 完成写真	下記ものを監督員に提出する 分類規格 撮影箇所数 部数 原画の大きさ ※ カラー ・キャビネ版 外部（ ） 100×125以上 ・モノクロ 内部（ ）
	8. 設備工事との取り合い	撮影業者 監督員の承諾する業者 ※撮影箇所、部数は監督員の指示による 施工範囲 ・図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ・図示した下地天井、壁ボード類の下地の補強を要する箇所の切込み及び補強 施工図 設備機器の位置、取合い等の検討できる資料を提出して監督員の承諾を受ける
	9. 工事完成図等	※ 作成する ・作成しない
	10. 設計GL	・図示 ※現状GL
	11. 施工図	工事の施工前には施工図を提出し、監督員の承諾を受ける。
	12. 責任施工保証書	次の件名の責任施工の工事保証書を施工業者及び製造所との連名にて竣工と同時に提出する 提出部数は本書、写し各一部以上とし監督員の承諾を受ける 件名 ・屋根工事 ※ 防水工事
	13. 提出図書	※ 本工事の施工に伴う提出図書は下記に定める他、監督員の指示による。 提出図書 部数 提出時期 備考 1. 工事請負契約書 2 契約時 甲乙用のもの 2. 工事工程表 2 契約後速やかに ネットワーク工程表 3. 現場代理人及び主任技術者 2 契約後速やかに 経歴書、資格証明 4. 協力業者名簿 2 契約後速やかに 5. メーカーリスト 2 契約後速やかに 6. 仮設計図書 2 契約後速やかに 7. 施工図、製作図 2 実施15日前 各工事毎 8. 工事工程報告書 2 1カ月毎 工事進捗表、写真、日報 9. 打合議事録 2 その都度 10. 官公署届出書類 2 11. 材料試験報告書 2 試験後10日以内 12. 工事竣工届 2 竣工時 13. 工事竣工引渡書 2 竣工時 14. 工事竣工図 2 竣工後30日以内 工事写真をファイルしたものを含む 15. 工事完成写真 2 竣工後30日以内 16. 工事保証書、取扱説明書 2 竣工時 17. 断熱材の計算書 2 竣工時 基準：建築物省エネ法 鍵ケース共 18. 耐用年数向上の計算書 2 竣工時 19. 従来防水工法耐用年数比較検討書 2 竣工時 20. その他 監督員の指示による

② 仮設工事	17. 定例打合会議	※ 工事の円滑な進行を図るため、監督員の指示により工事期間中定期的に各工事責任者を招集し、打合せを行う。 ※ 請負者は定例打合会議の議事録をとり、その都度監督員の承諾をえる。	
	① 監督員事務所	・ 設ける ※ 設けない 監督員事務所の規模（・1号 ・2号 ・3号 ・4号）	
	② 工事用水	構内既存の施設 ・利用できる（・有償 ・無償） ※ 利用できない	
	③ 工事用電力	構内既存の施設 ・利用できる（・有償 ・無償） ※ 利用できない	
	④ 仮囲い	※ 資材搬入時 ・A型ケード ○カラーコーン ・ガードフェンス	
	⑤ 安全対策	※ ガードマンの配置 資材搬入時	

③ 防水工事	① アスファルト防水	種別	施工場所	材料
				アスファルト ※ 3種 ・4種 アスファルトルーフィング ※ 35kg品 ・45kg品 ※ 改質アスファルト防水トーチ工法 TIS20R（同等品） t=25 下地活性剤共 ※ 改質アスファルト防水トーチ工法 TIS20R（同等品） ※ アクリルシリコン系遮熱塗料仕上げ（クールトップ#300Si）環境省認定品（同等品） ※ アクリルシリコン系遮熱塗料仕上げ（クールトップ#300Si）環境省認定品（同等品）
	② 保護塗料		平場 立上り・溝部	
	③ 断熱材		平場	※ 硬質ウレタンフォーム2種1号 RAボードU t=25
	4. 合成高分子系ルーフィングシート防水	種類	厚さ(mm)	仕上げ塗料 使用分類 施工箇所
				・シルバー ・非歩行 ・カラー ・軽歩行
	5. 塗膜防水	種別	仕上げ塗料	施工箇所
	6. シーリング材料	種別	材種	施工箇所
		・A種	シリコーン（1成分形）高モジュラス形	ガラス方立、ガラス突付け ガラス留め
		・B種	シリコーン（1成分形）低モジュラス形	金属製笠木目地 建具周囲
	・C種	ポリサルファイド（2成分形） ・変成シリコーン（2成分形）	建具周囲 プレキャストコンクリート コンクリート壁目地 カテナール	
	・D種	変成シリコーン（1成分形） ※ ポリウレタン	タイル目地 ALC目地、サイディング目地	
	接着性試験 ・行う ※ 行わない			
	⑦ ルーフィング ※ 改質アスファルトルーフィング ・ゴムアスルーフィング ・透湿型ルーフィング			

④ 屋根及び樋工事	1. 長尺金属板葺	材質	厚さ(mm)	塗装	葺形式	施工箇所
	2. 折板葺	材質	厚さ(mm)	塗装	山高	山のピッチ 緊結方式 施工箇所 ・ボルト式 ・はげ方式
③ 臭気筒金物	材料	※ ステンレス製 ※ Φ60				
④ ドレン	材種	・配管用鋼管 ・硬質塩化ビニル ・ガルバリウム鋼板 ※ 改修用縦型 Φ60 キャップ共				
⑤ 押さえ金物	材料	※アルミ製 ※L70×40				

5 配管工事	a. 管材	用途	管材料	備考
	給水	飲用系統	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管 水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管	SGP-VB SGP-FVB HIVP
		雑用系統	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管 水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 硬質ポリ塩化ビニル管	SGP-VA SGP-FVA HIVP VP
	地中埋設部		水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 水道配水用ポリエチレン管	SGP-VD HIVP
		市水引込部	供給事業者の指定による	
	給湯		一般配管用ステンレス鋼管 耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	SUS 304 HT
		排水	汚水雑排水 一般部 ビット部 汚水雑排水 地中埋設部 ポンプアップ 排水 給湯高温排水	DVLP HP VP VA HTVP
	通気		排水用ノントータルエポキシ塗装鋼管 硬質塩化ビニルライニング鋼管 耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管 配管用炭素鋼管（白管） 配管用炭素鋼管（白管）	
		ガス	排水・通気用耐火二層管 排水・通気用耐火二層管 供給事業者の指定による	
	消火	消火栓	配管用炭素鋼管（白管）	
		連結送水管	配管用炭素鋼管（白管） 圧力配管用炭素鋼管（白管） 一般配管用ステンレス鋼管 車庫等の荷重がかかる部分は破損防止措置（コンクリート巻等）を施すこと。 電気温水器設置の流し等から排水横主管までの排水管を給湯高温排水仕様とする。	STPG370 Sch40 SUS 304

5
配
管
工
事

b. ステンレス鋼管継手の種類
 ・Su以上：75以上
 ・突合せ溶接式（ただし、工場加工に限定する） ・ハウジング形管継手
 ・フランジ（・ルーズフランジ ・管端つば出し）

6
給
排
水
衛
生
設
備
工
事
の
保
温

a. 共同溝の保温種別
 ※屋外露出仕様
 ・屋内露出仕様
 共同溝内の排水管の保温の有無 ※なし ・あり

b. 機器の保温範囲
 次の機器は保温を行う。
 ・ポンプ（ ）
 ・屋外設置のポンプ

d. 管等の保温範囲留意事項 [付加]
 下記の配管・弁・フランジは、保温を行う。
 1) 給水管及び排水管等が防火区画を貫通する部分は、ロックウール保温材で充填する。
 2) 通気管、排気管で屋外開口部から2mの範囲は保温する。
 3) 各種タンク類のドレン管の屋外充水部及び充水部以降100 までの範囲は保温する。
 4) 屋外の給水用配管でポンプ周りの防振継手、フレキシブルジョイント等は保温する。
 なお、寒冷地仕様（適用は特記による）では、下記を追加する。
 5) 連結送水管・連結散水配管で充水式の場合の屋外露出部分は保温する。
 6) 屋内消火栓・屋外消火栓・補助散水栓配管の屋外露出部分は保温する。
 7) ガレージ、ピロティ等のスプリンクラー消火・泡消火配管は保温を行う。（不凍液を使用する場合、又は乾式、開放型の場合は保温を行わない。）
 8) 寒冷地にかかわらず駐車場出入口10m以内、ピロティ等に設置のスプリンクラー消火・泡消火配管のスプリンクラーヘッド巻出し配管、枝配管部分は保温を行う。

e. 多湿箇所及び暗渠
 多湿箇所及び暗渠の指定は、「3.1.4 空気調和設備工事の保温」と同じ

f. 保温材
 ・ロックウール（防火区画貫通部） ・グラスウール（屋内）
 ・ポリスチレンフォーム（屋外、多湿箇所（ただし70℃以下の部分））

g. 機器の保温外装
 ・耐候性樹脂 ・溶融アルミニウム-亜鉛鉄板（ガルバリウム鋼板）
 ・ステンレス鋼板 ・上部歩行形 ・下面塞ぎ板付き

名 称 上之丘団地4号棟屋上防水改修工事

課長

係長

設計

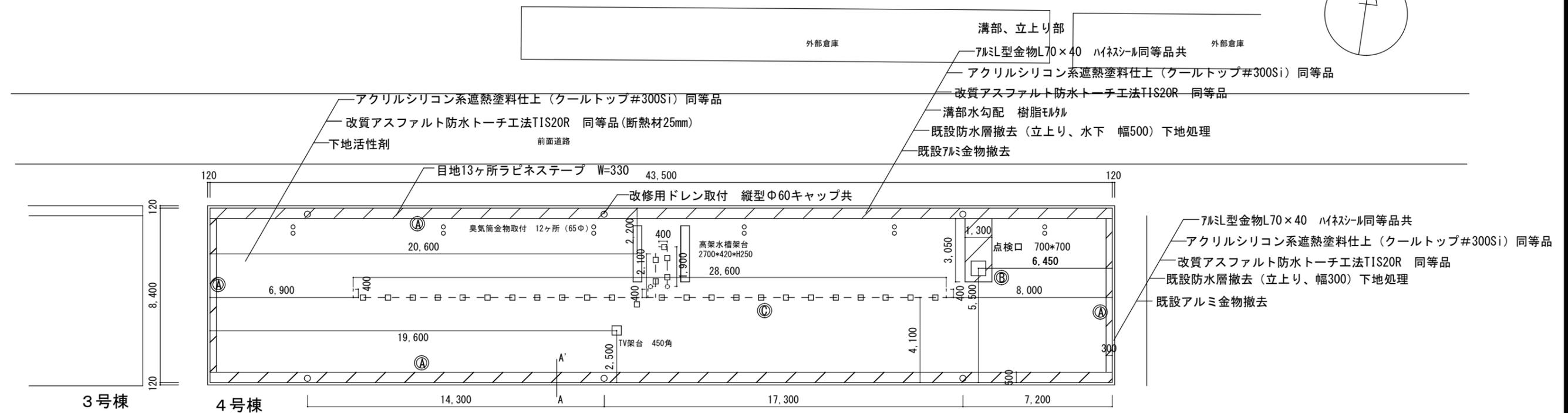
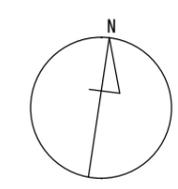
A02

図面名称 特記仕様書

縮 尺

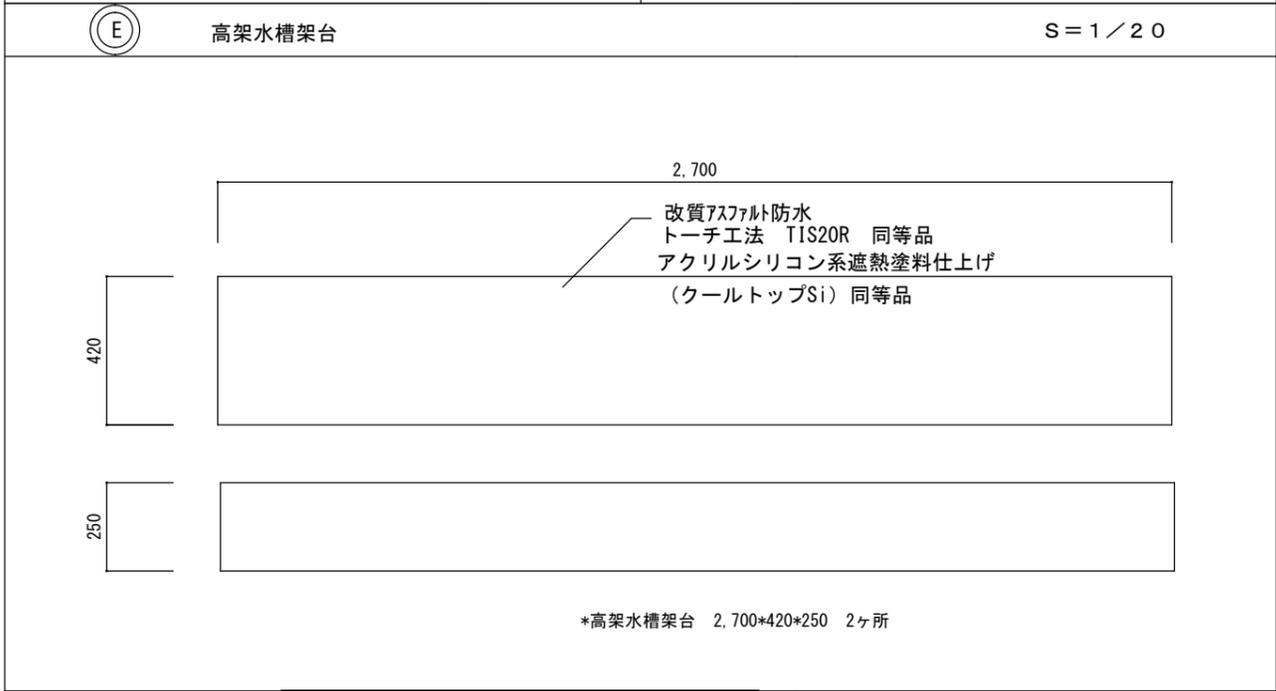
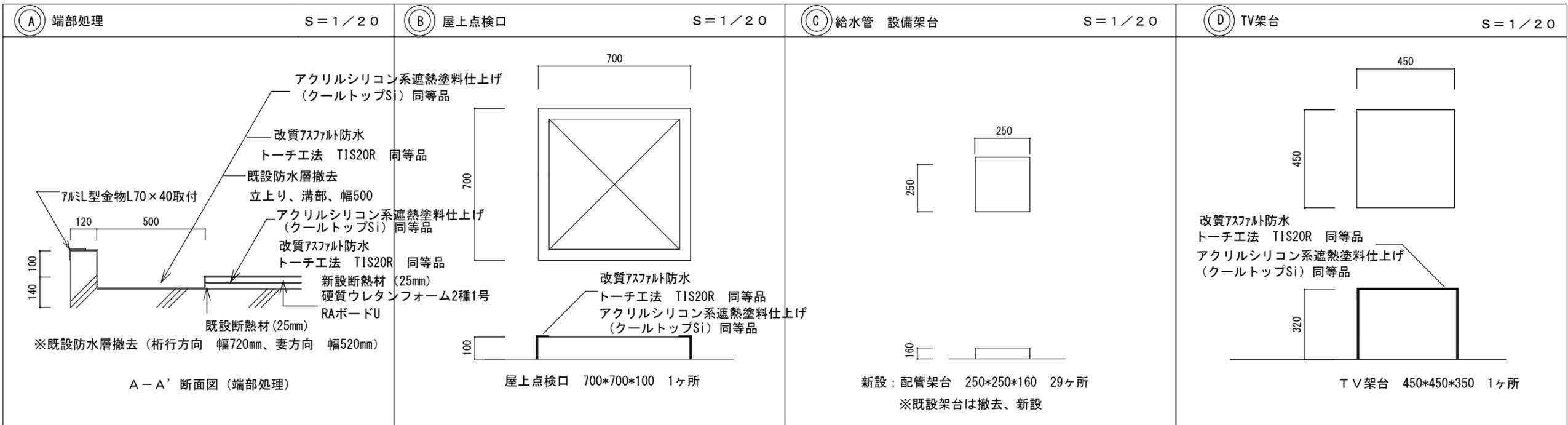


伊賀市役所
建設部 住宅課



屋上平面図 1 : 200

屋上防水改修工事仕上表					
記号	部位	既存/改修	内容	その他	
①	屋上 (平部、端部、立上り部)	既存	下地：PCパネル 仕上：断熱材厚25mm、改質アスファルト防水		
		改修	平場	下地：高圧洗浄、下地活性剤塗布 仕上：改質アスファルト防水 トーチ工法 同等品 (TIS20R 断熱25mm)、遮熱塗料仕上げ (クールトップ#300Si) 同等品	<ul style="list-style-type: none"> ・臭気筒 (SUS製 φ60) 12箇所 ・改修用ドレン (鉛製タテ型 φ60) 補強張り・アルミ製キャップ共 6箇所 ・アルミ製金物取付 (端部 L型70) 103m ・溝部水勾配調整 (樹脂モルタル塗り)、目地材 (ラピネステープ300mm)
			立上り 溝 基礎	下地：既存溝部撤去 (500mm)、押え金物撤去、高圧洗浄、下地活性剤塗布 仕上：改質アスファルト防水 トーチ工法 同等品 (TIS20R)、遮熱塗料仕上げ (クールトップ#300Si) 同等品	
<p><特記事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事に先立ち地元及び住民への周知を行うこと。 ・防水工事に先立ち給水管のラッキング及び配管架台を撤去、仮支持を行い、防水完了後に新設のラッキング及び架台を設置する。 ・材料荷揚げ時の、安全対策 (交通誘導員など) に配慮すること。 ・屋上からの飛散防止、騒音等の環境に配慮すること。 					



- (架台)
- ③アクリルシリコン系遮熱塗料仕上 (クールトップ#300Si) 同等品
 - ②改質アスファルト防水トーチ工法TIS20R 同等品
 - ①既設防水層撤去 (立上り・天端)